家畜衛生広報　まつえ　平成25年度　第3号

牛異常産のワクチンを接種しましょう!!

牛に異常産を引き起こすウイルスは、吸血昆虫（主に体長1～3mmほどのヌカカ）によって媒介され、夏から秋にかけて流行します。アカバネ病等のウイルス感染を予防する最も効果的な方法はワクチン接種です。ワクチン接種は毎年継続することで効果を発揮しますので、ヌカカなどが飛んでくる前に、確実に接種をしましょう。

＜牛異常産3種混合ワクチンで予防できる病気＞

○アカバネ病

流産・死産や先天性異常（関節の湾曲などの体型異常や水無脳症（大脳欠損症）を持った子牛の分娩）がみられます。また、生後感染により子牛や育成牛に後躯麻痺などの神経症状を起こすこともあります。

○アイノウイルス感染症

アカバネ病に類似し、流産・死産や先天性異常の出産が起こります。また、小脳の形成不全が高率に認められるのが特徴です。

○チュウザン病

流死産や関節湾曲などの体型異常は少なく、虚弱や起立不能などの運動障害や大脳欠損および小脳形成不全などの中枢神経系の異常が特徴です。

【ワクチン接種の対象牛】

1．繁殖母牛　　（夏から秋にかけて妊娠している、または妊娠する予定の牛）
2．自家保留育成牛　（概ね６ヶ月齢以上の繁殖候補牛）

【接種時期】

各地域の家畜自衛防疫団体が実施するワクチン接種期間内（概ね３月～６月）
牛異常産 3 種混合ワクチンは、初年時は 2 回注射する必要があります。

畜舎の出入口付近に消毒設備を設置しましょう!!

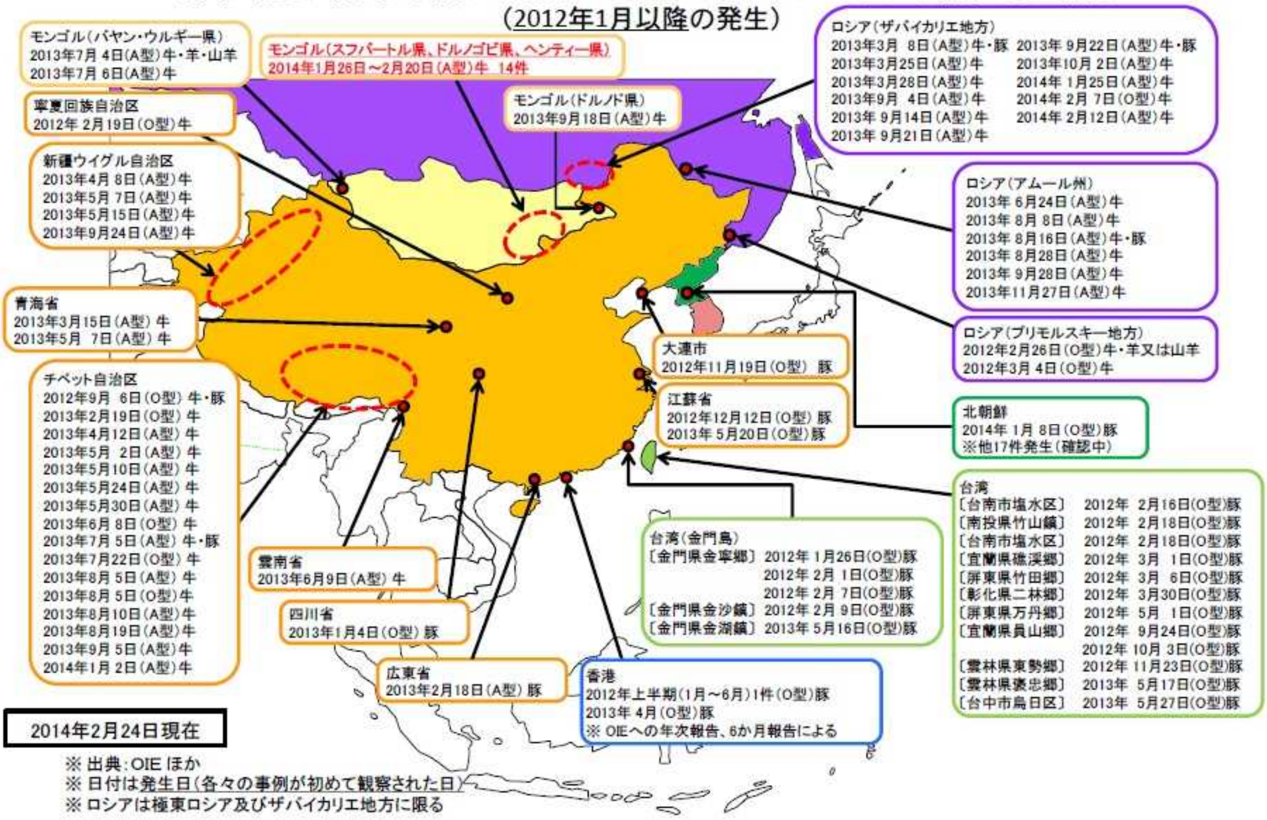
衛生管理区域（畜舎や飼料倉庫、堆肥舎を含む区域）への病原体の侵入リスクを低減するため、畜舎の出入口付近に消毒設備（踏込み消毒槽等）を設けましょう。

使用する消毒薬は、市販の消毒薬のほか、石灰乳も使用できます。消毒薬は、汚れると消毒効果が低減しますので、こまめに作り替えて下さい。

また、車輌の出入りするところには、消石灰をまいて消石灰帯を設置するとよいでしょう。

口蹄疫は近隣諸国で発生しています

中国、香港、台湾、韓国、北朝鮮、モンゴル、ロシアにおける口蹄疫の発生状況
(2012年1月以降の発生)



畜産農家の方へ

○自分の農場に入る際も、靴や持ち込む物の消毒を徹底しましょう。

○外部からの人や車をなるべく農場に入れないようにしましょう。

○農場に立ち寄る車や持ち込む物は必ず消毒しましょう。

○発生国に滞在していたためウイルスを伝播させる可能性がある人や発生国から輸入された物を農場に近づけないようにしましょう。また、口蹄疫が発生している国への渡航は、できる限り控えましょう。

○口蹄疫を広げないためには、早期発見がとても大切です。毎日、必ず家畜を観察して、おかしい時には、すぐに獣医師や家畜保健衛生所に連絡しましょう。

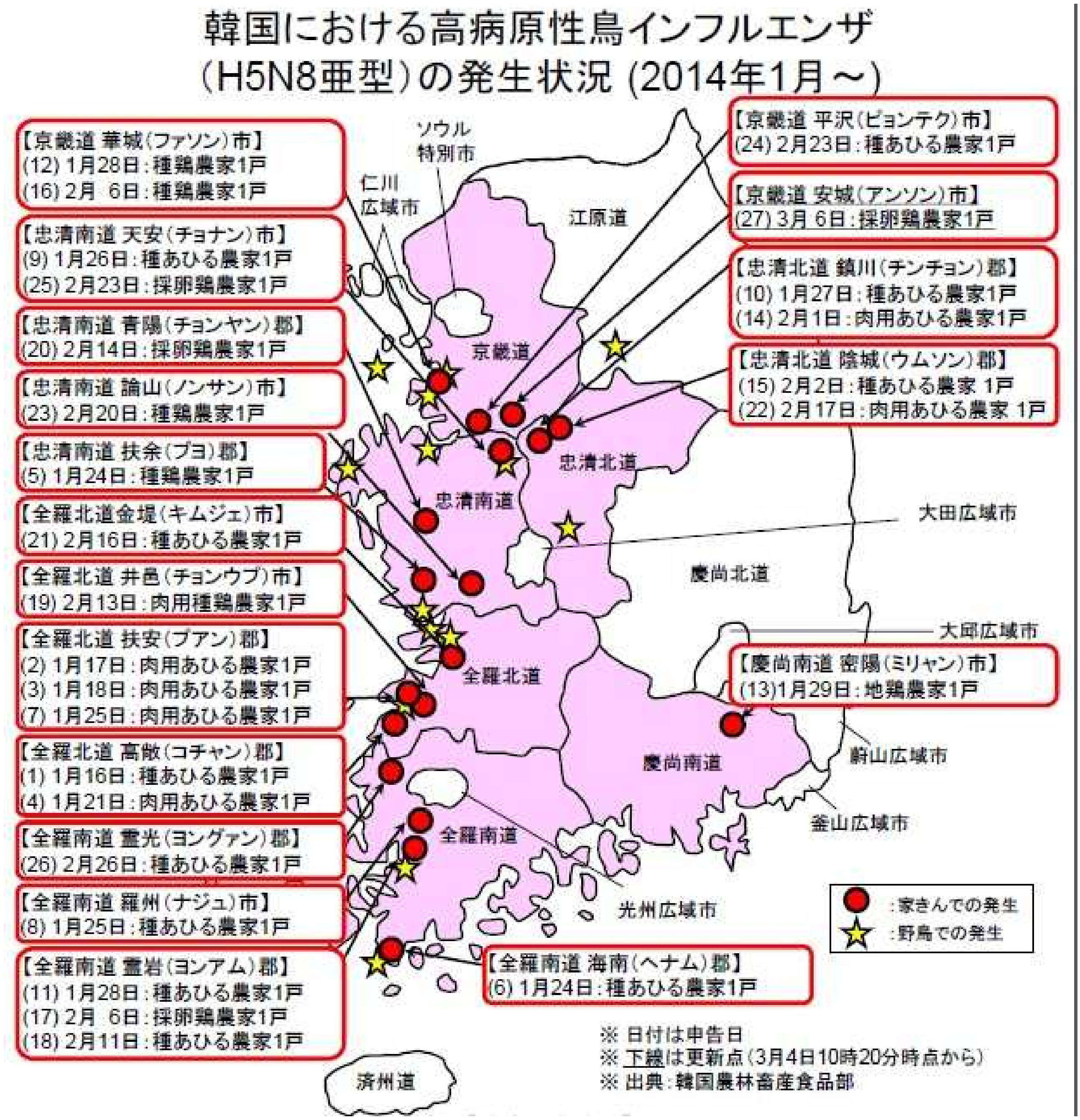
豚流行性下痢 (PED)の発生が確認されました

豚流行性下痢は、水様性下痢や嘔吐が主症状で、10 日齢以下の子豚では脱水により高率に死亡します。

2013 年 10 月に国内では 7 年ぶりに発生しました。3 月 10 日現在、8 県 178 農場において発生が確認されています。本病は糞便等を介して経口感染するため、発生予防およびまん延防止には、消毒等の飼養衛生管理をお願いします。

発生県	初発事例確認日	発生件数	発症頭数	死亡頭数
沖縄県	平成25年10月1日	4	233	75
茨城県	平成25年11月18日	2	406	234
鹿児島県	平成25年12月11日	117	118,900	20,444
宮崎県	平成25年12月13日	43	12,377	8,332
熊本県	平成26年1月28日	5	691	167
愛知県	平成26年2月16日	5	780	643
青森県	平成26年2月24日	1	2,548	419
高知県	平成26年3月4日	1	450	8

韓国で高病原性鳥インフルエンザが拡大しています



2014 年 3 月 10 日現在

韓国では１月から高病原性鳥インフルエンザ（H5N8)が発生しています。発生状況は 3 月 10 日時点で、韓国当局の公表している発生件数で 27 件で、他に発生農場周囲 121 農場、疫学関連 12 農場において H5N8 鳥インフルエンザが確認されています。防疫対応状況は、殺処分完了が 363 戸 860 万 8 千羽、殺処分予定が 19 戸 42 万 9 千羽となっています。野鳥における検査においても 371 件の検査で 34 件で陽性が認められています。

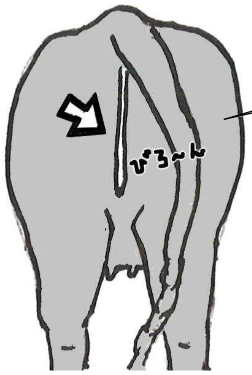
現在、国内においては、環境省が実施している野鳥糞便や死亡野鳥のサーベイランスでウイルスは検出されていませんが、既に同ウイルスが国内に侵入している可能性は否定できないことから、営巣地に向けて渡り鳥が帰るこの時期は、注意が必要です。

引き続き、飼養衛生管理基準に基づく飼養管理の徹底をお願いします。

発情を見落とさないで!!

－牛がこのような動作をしたら発情です。授精してもらいましょう!!－

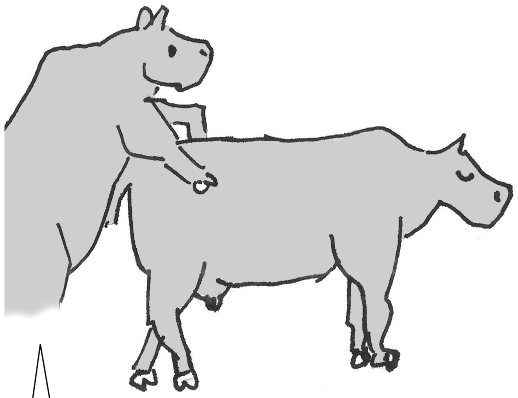
変な声で鳴く



発情粘液

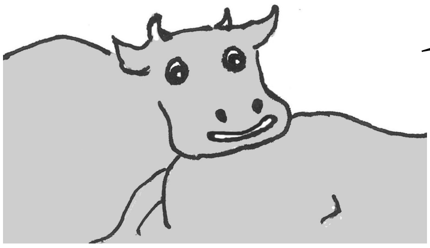
おしりや後肢に付いていることが多いよ！

出血が見られたら発情は終わっているよ。



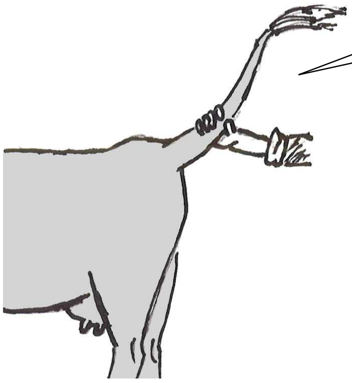
乗駕

乗る方は、発情前後に多い。
乗られてもじっとしているのは、発情期のみ。



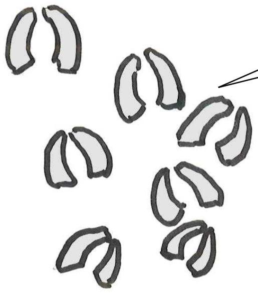
変わった行動

発情中の雌の尾根部に他の牛が顎を乗せたりなめたりする。
隣の牛に顔をツンツンする。



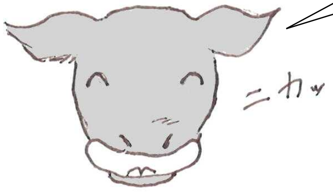
尾の抵抗

しっぽを持ち上げてみると、普段より柔らかくなり、楽に持ちあげられます。



歩きまわる

普段の４倍くらい歩く。
牛舎内で足跡が増えて、敷料がいつもよりもクチャクチャに！



牛が笑う

発情中の雌に対し、他の牛が笑ったような顔をする。
子牛で良く見られます

その他

神経質になったり、食欲が落ちたり…。

●発情徴候は、夜から早朝が多いので、朝夕２回、時間を決めて見るといいですよ。
●採食中や横臥中の時は避けて、牛が起立した状態で、30分くらい観察しましょう。

島根県松江家畜保健衛生所
〇本　　所（島根県東部農林振興センター松江家畜衛生部）
〒699-0109　松江市東出雲町錦浜 474-2
TEL（0852）52-5230　公用携帯 080-1935-0883　FAX（0852）52-3377
〇隠岐支所（島根県隠岐支庁農林局家畜衛生部）
〒685-0015　隠岐郡隠岐の島町港町塩口 24
TEL（08512）2-9690　公用携帯 080-1935-0886　FAX（08512）2-9657